

2017年7月8日

報告者:中国事情研究部会 山本忠士

## 中国事情研究部会 2017年第2回研究会報告

2017年度第1回の中国事情研究部会について、以下ご報告いたします。

日 時：7月8日（土）11時45分～13時45分

場 所：新宿小田急ハルク8階「叙々苑小田急ハルク店（個室）」

講 師：李虎男氏（中国・延辺科学技術大学教授）

テーマ：「北朝鮮をどう見るかー改革開放か、崩壊か」

参加費（昼食代）：2000円：

出席者：8名

### <概要>

最初に、延辺科学技術大学と交流のあるピョンヤン科学技術大学の現況について報告があった。同大学には、200名よの教員がおり、その内60名はアメリカ人教員。ドイツ、フランス、オーストラリアなどからも来ていて、授業は英語で行われている。あまり化、ヨーロッパのきりすつきょう関係の団体から資金援助があり、ノーベル財団とも交流がある。

金正恩政権の統治は、個人崇拜が進んでおり、IT技術が導入されるようになって、情報のコントロールが難しくなっている。また、配給システムの廃止によって、「市場」が各地にできたが、一面では貧富の格差が大きくなってきた。

経済政策もうまくいっていないようで、住宅供給の一環として高層住宅の建設も進められているがセメント、鉄鋼材料などの不足もあって、国民と距離を置いた建設ラッシュになっている。

核実験、ミサイル発射に伴うアメリカ等の経済制裁もあり、当面、厳しい経済運営が続くものと思われる。



研究会風景